

ひょうごの福祉

2021

7-8

No.836

つながりで笑顔輝く 共生のまちづくり

兵庫県社協2025年計画
策定に伴うリニューアル号

特集

つながりで笑顔輝く
共生のまちづくり

兵庫県社協2025年計画の策定

CONTENTS

- あなたのまちの社協活動
- キラリ ★ 社会福祉法人
- セルフヘルプグループのリアル
- 私の物語
- ひょうごの福祉NOW



この機関紙は赤い羽根共同募金
配分金により発行しています。

つながりて笑顔輝く 共生のまちづくり ～兵庫県社協2025年計画の策定～

「社会的孤立」「貧困・格差の拡大」など、地域生活課題が複雑化・多様化する中、新型コロナウイルスの感染拡大は地域や住民間のつながりなどに大きな影響をもたらしました。

これらに対応するため、県社協では「地域共生社会の実現」を目指し、県域での地域福祉を進める力を結集しながら、重点的に取り組む事項を明らかにする「兵庫県社協2025年計画」を策定しました。

本特集では、計画の概要と今後5年間の県社協の取り組みの方向性をお伝えします。



写真上から

- 障害当事者が参加する集いの場（協働推進目標①）
- 身近な地域での福祉拠点づくり（協働推進目標②）
- コロナ禍で再開されたサロン活動（協働推進目標③）
- その人らしい暮らしを支えるケア（協働推進目標④）

2025年計画の ねらいと 策定にあたっての視点

県社協ではこれまで、情勢動向を踏まえた中長期的な視点から自らの役割と活動方針を「中期計画」として定め事業に取り組んできました。このたび、5年に及ぶ前計画の終了に伴い、県社協では後継の「2025年計画」(以下、「本計画」)を策定しました。

本計画は、県社協事務局職員のワーキング会議での検討作業とともに、市町社協、社会福祉施設、当事者団体、職能団体と学識経験者からなる策定委員会を中心に、総合企画部会でも多角的に検討され、理事会・評議員会を経て策定されたものです。

「2025年計画」策定のねらい

- 1 「地域共生社会」の実現に向けて、県社協会員間の連携・協働を一層強めるとともに、幅広い団体・個人に地域福祉とまちづくりの一体的な推進をはたらきかける
- 2 新たな政策動向やコロナ禍で深刻化する社会的孤立等の地域生活課題をふまえ、県社協の重点的な取り組みと事業の方向性を明らかにする

策定過程では、地域共生社会の実現に向けて、委員・職員間で次の3つの視点を意識して検討を進めました。

- ① コロナ禍で拡大した「社会的孤立」への対応
- ② 住民・当事者を中心に据えた、多様な主体の協働による地域共生社会の実現
- ③ 地域づくりで進める制度・施策の狭間の課題への対応

また、第4期兵庫県地域福祉支援計画やSDGsの理念も踏まえ、全県的な地域福祉の向上を目指すこととしています。

本計画は、今後5年間の「基本目標」、県内のだざまな団体や関係機関、専門職などと共に目指す「協働推進目標」、県社協が重点的に取り組む「アクションプラン」で主に構成されます。以下、概要を紹介します。

地域共生社会の 実現に向けた基本目標

県社協2025年計画 基本目標

つながりで笑顔輝く 共生のまちづくり

兵庫県には個性豊かな各地域に多様な人々が暮らしています。多様性を有する私たちが先の3つの視点でもある「社会的孤立の克服」「住民・当事者を中心に据えた上での協働の促進」「制度の狭間への挑

戦」などに取り組むには、「共生のまちづくり」に向けてだざまな主体が「つながり合う」と「が不可欠です。

これを踏まえ、本計画で掲げる基本目標には、だざまな人が抱える生きづらさ、コロナ禍などで先行きに不安がある中でも、つながり合って困難を乗り越え、誰もが笑顔になれる地域社会を創造しようというポジティブなメッセージが込められています。

◆分野を超え、広い視野で進める 共生のまちづくり

本計画で取り組む「共生のまちづくり」は、住民相互の見守りや支え合いを基盤に、支え手受け手の関係を超え、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり、誰もが安心して暮らせる地域を目指す取り組みを指します。

【共生のまちづくりの一例】

- ・ 障害者やひきこもりの人が、就労支援を活用して休閑地で農業に携わる
- ・ 子ども食堂や学習支援で、子どもたちとボランティアの世代を超えた交流、地元企業などの協力が生まれる
- ・ 社会福祉法人が地域のコミュニティカフェの運営に参加しながら、専門的支援を行う など

これらのように共生のまちづくりには、福祉分野の連携に限らず、「雇用」「教育」「防災」「まちおこし」など、だざまな分野の実践と連



学生ボランティアの柔軟な発想・行動も「共生のまちづくり」の大きな推進力

携し、多様な力を結集することがこれまでに重要なこととなります。

“オールひょうご”で 共に進める4つの 全県的な協働推進目標

さまざまな分野の関係者、多様な主体との連携が欠かせない「共生のまちづくり」を進めるために、本計画では4つの全県的な協働推進目標【表1】を掲げました。

協働推進目標は、県内社協、社会福祉法人、民生委員・児童委員、当事者団体、職能団体、ボランティアなど、県社協の会員に取り組みをはたらきかけ、共に推進する「行動目標」です。これら4つの目標は、ゼロから新しい何かに取り組むことを指すものではありません。普段から取り組む事業や活動、かつて行っていたことの中に、この協働推進目標と重なる

【表1】全県的な協働推進目標

1. 一人ひとりの尊厳が守られるまちづくり

【推進する取り組み】

- 社会福祉・医療・司法関係者などの連携による権利擁護体制づくり
- 福祉学習や啓発活動など、一人ひとりが自己実現できるための土壌づくり

2. 多様性を認め合い、“自分らしさ”が発揮できるまちづくり

【推進する取り組み】

- 就労機会の確保、地域でのサロン等、多様な社会参加の場づくり
- あらゆる人や拠点等、地域の様々な資源がつながる持続可能なまちづくり

3. 誰もが参加・参画し、多様なつながりのあるまちづくり

【推進する取り組み】

- 誰でも参加でき、生活上の悩みやニーズを語り合い、共感し合える場づくり
- 多様な主体による支え合いネットワークの構築
- コロナ禍における新たなつながり・支え合い活動

4. みんなの暮らしを包括的に支えるまちづくり

【推進する取り組み】

- 福祉の人材づくりに向けた教育現場等との連携による福祉学習・啓発活動
- 福祉サービスの質の向上に向けた福祉専門職の育成
- 地域の支え合い活動等、制度内外の様々な活動の包括的な推進

POINT

“オールひょうご”で
進める行動目標

アクションプランで 今後5年間の県社協の 取り組みを明確化

協働推進目標に続き、地域共生社会の実現に向けて、県社協が今後5年間で何に取り組むかを明らかにしたのが「アクションプラン」です【表2】。

アクションプランには、住民主体の地域づくりを基盤とした包括的な支援体制・共生のまちづくりを、市町社協、社会福祉施設、NPOなどと協働して進められるよう7つのテーマ別で取り組みを整理しています。重点的取り組みを中心に到達状況の確認と評価を行い、毎年の事業計画に反映して具体的な事業を展開していきます。

【表2】兵庫県社協

今後5年間（2021～2025年度）の取り組み（アクションプラン）

Action1 地域福祉の推進基盤を担う市町社協への支援

市町社協が地域の多様な関係者をつなぎ、地域生活課題の解決に向けた連携・協働の場（プラットフォーム）としての機能を発揮できるよう、全県的な地域福祉推進上の検討・協議の場づくりを行います。

1. 市町社協が地域福祉推進組織としての役割を發揮するための組織基盤を強化します
2. 包括的支援体制の構築に向けたコミュニティワーカーの育成と地域福祉活動を支援します

Action2 権利擁護を基盤とした包括的な相談支援

すべての人の尊厳が守られ、地域社会とのつながりの中で自分らしい生活が送れるよう、必要な支援や関わりにつなげる包括的な相談支援の体制が、各市町域で構築されるための取り組みを進めます。

1. 生きづらさを抱える人々を含めた相互エンパワメントを促進します
2. 意思決定支援を中核とした権利擁護体制づくりを支援します
3. 困りごとを受け止め支える相談支援体制づくりを支援します

Action3 社会福祉法人の経営基盤強化と地域公益活動への支援

社会福祉法人による福祉サービスの一層の質の向上と地域公益活動が全県的に推進できるよう、市町社協や施設種別協議会、幅広い団体・機関と連携・協働し、法人の経営支援の充実・強化を図ります。

1. 社会福祉法人への経営支援を強化します
2. 社会福祉法人の地域公益活動を支援します

Action4 福祉人材の確保・定着と外国人介護技能実習生への支援

福祉人材の確保・定着に向けた支援をハローワークや市町行政等の関係機関と連携して取り組むとともに、外国人介護技能実習生の円滑な受入と実習生が安心できる環境整備を進めます。

1. 福祉人材の確保・定着に向けた取り組みを強化します
2. 外国人介護人材の定着・確保に向けた支援を進めます

Action5 福祉専門職の育成支援

体系的な研修の実施とともに、各福祉職場での人材育成を支援します。また、制度・分野を超え、生活全体を包括的に捉える多職種連携の視点や住民と協働し地域づくりを進める人材を育成します。

1. 社会福祉推進に必要な知識・技術を有する人材の育成を支援します
2. 意欲と実践力を高めるための研修手法の開発と評価機能の強化を進めます

Action6 幅広い主体や社会資源がつながる地域づくり活動支援

市町社協、ボランティア団体やNPO、当事者団体、企業等との連携・協働のもと、ボランティア活動の担い手や活動資金の確保とともに、多様な主体の交流・連携に向けた新たな場づくりを進めます。

1. ボランティア活動の担い手の拡充・活動の充実に向けた更なる支援を行います
2. 地域課題の解決に向けた多様な主体の連携・協働による取組を支援します
3. 市町社協ボランティア・市民活動センターや中間支援NPO等の連携・協働への更なる支援を行います

Action7 大規模災害に備えた支援体制づくり

平時より県・市町・市町社協・NPO等の関係機関と連携・協働し、災害ボランティアセンターの運営人材の育成や活動資機材の整備、情報収集・発信等を通じ、県域の災害福祉支援体制づくりを進めます。

1. 災害時に備えた市町社協の平時からの体制づくりを支援します
2. 災害ボランティア活動を支える体制の構築・強化を進めます
3. 大規模災害に備えた支援ネットワークの構築を進めます

なお、今後5年間の取り組みを進める上では、コロナ禍で生じた社会的孤立や生活困窮などの課題に対応することが不可欠です。そこで県社協は、アクションプランで地域のつながりづくりに向けた「コロナ禍の地域福祉活動の事例収集・発信、情報交換」、コロナ禍に対応した人材育成の手法を探る「ICTを活用した研修手法の検討・開発」、福祉分野のマッチングを促す「オンライン面談システムの普及」などを掲げて展開していきます。

◆アクションプラン推進の基礎となる組織基盤強化

これらのアクションプランを着実に実施するため、県社協では「組織強化」「調査・研究機能の強化」「職員育成」「財政基盤強化」の4本柱を中心に、組織基盤の強化に取り組みます。局内を横断した検討の場の設置をはじめ、全期間を通じて、役員・会員と共に計画を推進できるよう、礎となる組織管理体制・業務管理体制の確立を目指します。

2025年の ひょうごの福祉に向けて

以上、本計画の概要をお伝えしましたが、今号で紹介したのは一部に過ぎません。本計画の核となる基本目標「つながりで笑

顔輝く 共生のまちづくり」は、県社協の取り組みだけでは実現できません。個性豊かな兵庫県で、本紙読者である社協や福祉施設、民生委員・児童委員、NPOなどが一緒に共生のまちづくりを目指すには、課題やニーズを基に、「目指す地域社会の未来像」を、県域・市町域と重層的に関係者で話し合い、協働で取り組みを進めることが重要です。

また、本紙「ひょうごの福祉」は、本計画の協働推進目標の視点を踏まえながら、今後も社会福祉の動向、県内の多様な実践、県社協の取り組みを発信し続けます。そして、共生のまちづくりに向けた情報提供と課題提起の一助となり、生き生きと輝く実践と読者との懸け橋になることを目指します。この特集で紹介した2025年計画と併せ、リニューアルした「ひょうごの福祉」もよろしく願っています。



「ひょうごの福祉」はこれからも県内の多様な実践を伝えていきます

次号より新コーナー「笑顔輝く 共生のまちづくり」が始まります

県社協はこれまで、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを推進協議会の皆さまと共に進め、県民フォーラムの開催や地域フォーラムの開催支援、本紙での情報発信などで無縁社会に警鐘を鳴らしてきました。

この度、地域共生社会の実現や「ポストコロナ社会」の動向も見据え、同キャンペーンの取り組みや実績を活かして、次号より新コーナー「笑顔輝く 共生のまちづくり」の連載を始めます。

共生のまちづくりを目指して一緒に取り組みましょう

協働推進目標 1

「一人ひとりの尊厳が守られるまちづくり」の取り組み

協働推進目標 2

「多様性を認め合い、「自分らしさ」が発揮できるまちづくり」の取り組み

協働推進目標 3

「誰もが参加・参画し、多様なつながりのあるまちづくり」の取り組み

協働推進目標 4

「みんなの暮らしを包括的に支えるまちづくり」の取り組み

共生のまちづくりには、さまざまな分野の関係者や多様な主体との連携が欠かせないことから、県内各地で進められる、2025計画に掲げた協働推進目標に関する取り組みを紹介します。SDGsのように、さまざまな主体ができることに取り組み、共生のまちづくりの輪を広げることを目指します。

あなたのまちの 社協活動

共生のまちづくりに
向けて、市町社協が
取り組むさまざまな
活動を紹介します。



今回、紹介するのは

尼崎市社会福祉協議会

☎06-6489-3550

尼崎市社協

検索



QRコード

「駄菓子屋」の店舗を活用した子どもの居場所づくりをサポート

尼崎市社協では、市内6支部に2名ずつ配置されている地域福祉活動専門員（兼生活支援コーディネーター）が身近な窓口になり、住民同士が支え合い・助け合う地域づくりを進めています。今回は、立花支部での「子どもの居場所づくり」に向けた支援を紹介します。

相談をきっかけに、 より充実した居場所づくりへ

支援のきっかけは、地域で駄菓子屋「うさぎや」を営む伴あい子さんからの「店舗の2階を子どもの遊び場として週4日開放している。子どもたちに工作を教えたり、遊んでくれるボランティアを紹介してほしい」という相談でした。



子どもたちの
元気な声が響く
「うさぎや」

毎週、月・火・木・金
15:00~18:00開店

立花支部の地域福祉活動専門員・青川茉莉さんは、他の職員と連携してボランティアを調整するとともに、子どもの居場所を充実させる参考になればと、保育士経験のある伴さんの話を聞きながら、市内の子ども食堂や学習支援の活動などを紹介していきました。

活動者と地域の資源をつなぎ、 「うさぎや」を応援する輪を広げる

支援の開始当初、地域住民や学校との関係づくりを望む伴さんの想いに寄り添い、青川さんは、民生委員・児童委員、主任児童委員に伴さんの活動について情報提供を重ね、小学校の先生方には

子どもの居場所を地域につくる大切さを伝えていきました。時には見学を勧めることで「地域で子どもたちを見守ろう」という気運も高まり、「うさぎや」のことを理解し応援する輪も広がりました。



工作教室で高校生と
ふれあう子どもたち

また、市の福祉課と協働して近隣の高校生のボランティア活動先として「うさぎや」を紹介した結果、小学生と高校生との交流が生まれ、工作教室や楽器の演奏会といったイベントの開催にもつながりました。子どもたちにとっても、年齢の離れた高校生との交流でさまざまなことを学び、体験できる貴重な機会になりました。

青川さんは、「社協は、活動者と地域の“つなぎ役”。活動者が地域のさまざまな社会資源とつながれるように支援することが重要ではないでしょうか」と力強く語っておられました。

活動のポイント

思いに寄り添い、
活動者と地域の資源をつなぐ

つなぐことで、地域に
応援の輪が広がる

取材を
終えて

取材の日、伴さんが温かい笑顔で出迎えてくれました。お話を伺い、青川さんと伴さんがそれぞれの思いや考えを丁寧に重ね合わせたことで、地域に応援される子どもの居場所づくりが進んだことを感じました。

キラリ★社会福祉法人

神戸市西区
社会福祉法人連絡協議会
(ほっとかへんネットKOBЕ・西)

暮らしを支える
地域公益活動を
紹介します。



おかんの缶づめ
これ一品!
栄養士さん作の、
カラフルなレシピを添えて。

日頃のつながりが生んだ缶づめ配付・見守り活動

ニュータウンと農村地域が混在する神戸市西区には、43の社会福祉法人が会員になった「ほっとかへんネットKOBЕ・西(以下、ほっとかへんネット)」があります。今回は、コロナ禍でも進めた地域公益活動「おかんの缶づめこれ一品!」を紹介します。

「ただ配るだけではもったいない」と、缶詰を使ったレシピを添えて食の楽しさを演出するアイデアも取り入れました。会員の保育施設などの栄養士に声を掛けると、すぐにレシピが完成。缶詰は民生委員・児童委員の協力で、声掛けをしながら手渡されていきました。「企業のフードロス対策」「住民

ほっとかへんネットでは、地域の給食会にコロナ禍以前に参加していた方への見守りになればと、缶詰を持参した個別訪問を企画。昨年度、新型コロナウィルスの影響で地域の給食会が中止が続いて、閉じこもりがちの高齢者を心配する声が西区社協に寄せられました。そんな折、(株)セブンイレブンジャパンから区社協へ「さんまの水煮缶」650個が寄贈されました。これは、同社と市・市社協との協定によるもので、店舗の在庫商品を子ども食堂や困窮者支援などに活用する取り組みです。



コロナ禍での見守り活動に専門職の力をプラス

昨年度、新型コロナウィルスの影響で地域の給食会が中止が続いて、閉じこもりがちの高齢者を心配する声が西区社協に寄せられました。そんな折、(株)セブンイレブンジャパンから区社協へ「さんまの水煮缶」650個が寄贈されました。これは、同社と市・市社協との協定によるもので、店舗の在庫商品を子ども食堂や困窮者支援などに活用する取り組みです。

柔軟に活動できる背景

ほっとかへんネットがコロナ禍で柔軟に動けた背景にあるのは、普段からのつながりです。以前より会員法人の役員層の会と実務者会の他、研修を通じて法人間につながりを育んできました。活動面でも、「子どもの居場所づくり」では、地域の婦人会と企画から一緒に作り、夏休みなどに学習支援や食事の場を提供しまし

同士の「見守り」に「社会福祉法人の専門職の力」が加わり、コロナ禍での地域のニーズにマッチし、多くの人に喜ばれる取り組みにつながりました。



会員法人に勤務する栄養士が「食育」でも地域に貢献「こどもの居場所づくり」にて

た。また、交通手段の減少などにより移動に支障をきたす地区の高齢者が給食会に参加できるよう、法人の車両を活用した「移動支援」も行ってきました。

ほっとかへんネットでは、平時から会議や研修で法人同士のつながりをつくり、具体的な活動を通じてつながりを確かなものにしてきました。今後も少しアイデアをプラスすることで、魅力的なコラボレーションと新たな活動の誕生が期待されます。



実務者レベルで共に学び合う機会も大切にしています

ほっとかへんネットKOBЕ・西
事務局・社会福祉法人神戸市西区
社会福祉協議会
TEL:078-1929-0001(代)

セルフヘルプグループの リアル

活動の一コマ。
ライブトーク
「生きるとは？
働くとは？」



NPO法人 グローバル・シップスこうべ

ひきこもりや不登校を経験した当事者による自助グループ「グローバル・シップスこうべ」（通称：ノア）。支援者が用意した居場所に集まった当事者たちが、自らグループをつくり、育んできた経緯や活動にかける思いなどを代表の森下徹さんに伺いました。



グループの概要

名称 NPO法人 グローバル・シップスこうべ
所在地 姫路市龍野町2丁目18番地
コミュニティハウス白鷺館内（職員の常駐は無し）
H P <http://www.global-ships.net/>



QRコード

◀ オンラインでのミーティングには、遠方から参加する方も

Q1. グループを立ち上げたきっかけは

A. 平成18年にオープンした、ひきこもる若者を支援する「ISIS神戸」に集まった当事者ら6名が、任意団体をつくったのが始まりです。ひきこもりに関する居場所も情報も乏しかった当時、ISISでの体験発表や交流などを重ねる中で、さらに課題に向き合い取り組みたいと自らグループを立ち上げる機運が高まりました。

その後、ひきこもりをめぐる課題を社会に伝えようと企画したシンポジウムなどを経験し、平成21年に「グローバル・シップスこうべ」としてNPOの認証を受けました。団体の存在を確かなものにする面でも法人化は有効だったと感じます。

Q2. 現在どのような活動に力を入れていますか

A. 活動当初、情報不足に直面した経験から、私たちが運営管理する情報ポータルサイト※1には各地の家族会や支援機関などの情報の掲載を充実させています。

メンバー同士の月1回のミーティングは、コロナ禍の今はオンラインが主流ですが、実際に会えなくても“つながれること”を大事にしています。従来のミーティングに加えて、昨年は県の事業を受託し、オンライン会議アプリを活用した語らいの場を2カ所運営しました。

「仕事づくり」も大事なテーマで、例えばWEB関係の仕事に取り組むメンバーもいます。コロナの影響でオンライン会議の導入やWEBサイトに関する依頼が増え、その対応でメンバーは報酬を得ています。

※1：URL ▶ <https://hyogo-hopstepjump.info/>
(兵庫ひきこもり情報ポータルサイト)

Q3. 社会に望むことやグループの目標は何ですか

A. 何かを社会に望むより、自分たちにできることを探して取り組むのが今の私たちの活動スタイルです。活動を通して社会とつながり、理解を得たいと思っており、その意味では先にも触れた「仕事づくり」は今後も大切にしたいです。

ともすればひきこもりは、医療・福祉分野で治療や就労訓練の支援対象として捉えられますが、「自分なりのペースで生き方を模索している人もいる」ということを、支援者や家族も心の片隅に置いてほしいと感じます。



“落ちこぼれの私” だからこそ “できること”を求めて

私の物語 *my story*

このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・思いを紹介していきます。



あだち さとえ
足立 里江 さん

朝来市健康福祉部 ふくし相談支援課（看護師・主任介護支援専門員）

Personal History

- 平成元年 看護学校を卒業。病院の看護師として就職
- 平成4年 生野町（現朝来市）の在宅介護支援センターに就職
- 平成18年 朝来市地域包括支援センターへ異動
- 令和元年～ 朝来市ふくし相談支援課副課長として高齢者・障害者福祉に携わる

私のモットー “よい支援”を受けた援助者こそが、“よい支援”を提供できる



原点は新人ナース時代に

もともとマイペースで要領の悪い私。故郷を離れて総合病院の看護師になりましたが、3つ何かをしようとすれば1つ忘れ、理解にも時間がかかる新人でした。同期は、次々と仕事を覚えて夜勤も任せられました。私は任せてもらえません。技術を知識で補おうと懸命に勉強しましたが、周りをハラハラさせるのは相変わらずで、寮でよく泣いていました。

そんな半年が過ぎた頃、見守ってくれていた看護師長が私に言いました。「あなたは今、失敗続きでつらいかもしれない。でも、たくさん失敗した人は、その理由や失敗した人の気持ちがわかる。そういう人こそ、将来、人を育てることができるのですよ」。



看護師長の言葉を胸に30年

その後、双子の出産を機に福祉行政へ転職し、在宅介護支援センターを経て地域包括支援センターの主任介護支援専門員^{※1}の道を歩みました。

在宅介護支援センターでは、地

域と協働する仕事の醍醐味を知り、また、個々のケースに向き合う中では、クライアントの感情に揺さぶられながらも支援の経験を積みました。

地域包括支援センターに異動すると、多くの新人ケアマネジャーが、昔の私と同じように悩み、自信を無くしている姿を目にしました。その姿を見ると、かつて看護師長がまだ見ぬ私の力を見出してくれたように、「私も力になりたい！」という思いが湧き、ケアマネジャー同士がつながり、支え合い、学び合える環境づくりが必要だと



現在の職場にて、仲間とともに

感じました。その思いから取り組んだのが「ケアマネジメント支援会議」の立ち上げです。そこでの事例検討を通じて、学びと気づき、苦悩をも共有してきた今、朝来市のケアマネジャーの実践力の高さや結束力の強さは、私が最も誇れることの一つです。

あの日看護師長がくれた言葉は、単なる励みだったのかもしれないが、私の職業人生にとつての道しるべとなりました。今後もケアマネジャーやさまざまな専門職、地域の人たちと一緒に悩みつつも私にできることを求めていきたいです。

※1…主任介護支援専門員には、新人ケアマネジャーの指導・育成・相談、地域の福祉課題の発見や解決に尽力することなどが期待されている。



平成29年に出版した書籍
ケアマネジメントにおける「援助関係の軌跡」
クライアントとの間にあるもの

相談支援付き貸付としての
生活福祉資金の原点を共有

6月3日、県社協では、県内市区町村協職員を対象に「生活福祉資金貸付事業新任担当職員研修会」をオンラインで開催しました。

冒頭、民生委員による世帯更生運動をきっかけとした生活福祉資金貸付事業の制度発足から、相談支援付き貸付としての原点について共有しました。次に、オンライン上でグループに分かれ、事例をもとに相談支援のポイントについて考えました。最後に、多岐に渡る資金種別の違いや事業の実施に必要な事務手続きについて確認しました。

今回の参加者の約6割が新型コロナによる特例貸付制度の開始後に入職していることもあり、研修後のアンケートからは、「日々、特例貸付の対応に追われ、悩みを抱える住民の相談に十分に応えられていなかった」という気付きや、「ご本人がどのように今後の生活を安定して送れるか、解決の見通しを一緒に考えていく」ことの大切さを再認識する意見も見られました。

生活福祉資金貸付事業は、単な

る貸付にとどまらず、社協のネットワークを生かしながら貸付以外の手段も含めて生活再建の方法を探ることが求められます。そのため、来所者の悩みを深く聞き取り、生活全体を見て「これまで」「いま」「これから」を共に考えることが支援の第一歩であることを確認する機会になりました。



感染防止対策を図りながら、来所者の悩みを聞き取り、相談対応する社協職員（写真提供：宝塚市社協）

福祉の仕事の魅力を伝える
キャラクターが誕生

県福祉人材センターでは、幅広い世代の方々に福祉・介護の仕事への興味・関心を持っていただくよう、このたびキャラクター（兵太くん、ふくさん、福美ちゃん）を制作しました。制作を手掛けたのは、忍者をテーマにした漫画やアニメで全国的に有名な尼子騒兵衛氏です。

今後、福祉のさまざまな場面で活用していく予定です。



ふくみ
福美ちゃん



ふくさん



ひょうた
兵太くん



URL

<https://hyogo-fukushijob.com/>



QRコード

お問い合わせ先

兵庫県福祉人材センター ☎078-271-3881

その他、同センターでは、福祉の仕事を探す人に向けたWEBサイト「ひょうご・福祉のおしごと探し総合支援サイト【フクシ♥未来のチカラWEB】」を新たに開設しました。

このWEBサイトでは、福祉の現場で活躍する方々を紹介する動画、社会福祉法人のPRと採用予定情報、福祉人材センターが主催する各種イベントの最新情報などをご覧いただけます。また、サイト内には、求人をしている社会福祉法人とオンラインで面談ができる機能も整えましたので、ぜひご利用ください。

寄付・寄贈のお礼

本会では、県民・企業・団体の皆さまから預かった寄付や寄贈を、地域福祉の向上に役立てています。今号では、本年5月以降に温かな善意をお寄せいただいた企業について紹介をします。

■株式会社ツルハホールディングス様、クラシエホールディングス株式会社様より、車いす5台の寄贈

■紀の庄木材株式会社様より、児童福祉の推進を目的として、兵庫善意銀行へ10万円

温かな善意に対し、「こ」に感謝申し上げます。社会福祉分野での活用を前提とした寄付・寄贈をお考えの方、社会貢献をお考えの企業の方は、ぜひ県社協企画部(078-242-4633)までお問い合わせください。

※兵庫善意銀行では、いただいた寄付から、複数の社会福祉施設の利用者のために、行イベントなどへ助成を行っています。

県社協の役員改選について

本会の役員任期が満了することに伴い、去る6月29日に第207回評議員会(定時評議員会)が開催され、新たな理事・監事が選任されました。役員任期はいずれも令和5年度の定時評議員会最終結の時までとなります。

また、同日に開催された第276回理事会において、本会の正副会長が選出されました。

会長には吉本知之氏が再任され、副会長には谷村誠氏(兵庫県社会福祉法人経営者協議会会長)、亀田龍昇氏(兵庫県民生委員児童委員連合会会長)、玉田敏郎氏(神戸市社会福祉協議会理事長)、福田好宏氏(兵庫県社会福祉協議会常務理事兼務)が再任されました。また、阿部昌弘氏(南あわじ市社会福祉協議会会長)が新たに副会長に選任されました。

県社協では、新たな役員体制のもと、「2025年計画」に掲げた共生のまちづくりを目指した取り組みを進めます。

スマートフォンからも手軽に読める「ひょうごの福祉」へ

「ひょうごの福祉」は、今回のリニューアルに伴い、パソコン・スマートフォン・タブレットからでも、手軽に記事が読めるWEBサイトを新設しました。

このサイトでは、ネットニュース感覚で、いつでも記事をお読みいただけるのが特徴です。紙媒体の「ひょうごの福祉」のご愛読とともに、WEBサイトへのアクセスとご利用をよろしくお願いします。



QRコード



ぜひお気に入りにご登録を!

<https://hyogo-no-fukushi.t-reader.jp/>

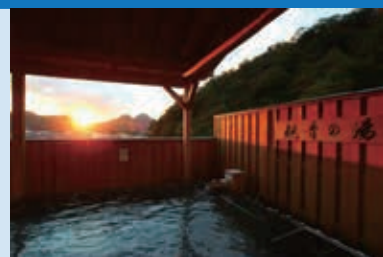
浜坂温泉保養荘は万全なコロナ対策で皆様のご利用を心よりお待ちしております!

☆☆うまいもんでおもてなし☆☆
四季折々の新鮮な地元食材とともに、ほっとしていただける空間をご用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

【当荘の新型コロナウイルス感染対策】

1. 館内に消毒液・飛散防止パーテーションを設置
2. 定期的な消毒清掃・強化
3. 館内・室内の換気
4. 従業員の健康管理
5. ご予約人数の制限

最新情報は↓公式サイトへ



6,800円～(1泊2食)

兵庫県美方郡新温泉町浜坂775 TEL0796-82-3645